

波紋

1988

3



新人歓迎ボーリング大会



LANE NO.	NAME	H.C	1ST	2ND	3RD	4TH	TOTAL	R.K
245	岩間	170	144				314	2
251	山口	126	145				271	9
252	取野	127	134				261	12
247	伊佐	117	95				212	8
246	藤山	151	137				288	5
251	田井村	129	108				237	20
250	大橋	110	134				244	19
248	久保田	116	125				241	1
247	植東	120	138				258	14
246	吉岡	139	127				266	11
249	鳥羽	127	110				237	22
250	伊藤	81	119				200	13
248	光田	119	167				286	6
252	伊東	128	139				267	10
245	成瀬	95	82				177	24
251	富田	110	84				194	18
249	西田	130	126				256	15
247	下道	106	131				237	21
248	高橋	114	98				212	23
252	橋本	129	108				237	3
250	中井	123	132				255	16
249	森田	126	128				254	17
245	津々木	125	113				238	4
246	カ	84	101				185	7

二月十三日(土)午後六時よりグラウンドボウルにて、高橋さん、鳥羽君(十九才)の歓迎ボーリング大会が行なわれました。
参加者も二十四名と今までで最も多く、ハレーンの所でここで歓声と拍手がわき、一時間半もあっという間。
そして結果はごらんとおり

一回はどんなスコアが出るか、さらに高いスコアが出るよう、皆さん頑張りましょう。

一位 久保田裕子
二位 岩間 正美
三位 橋本 正子

交差点

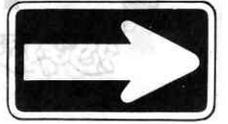
結婚式

先日、永井さんの結婚式に出席しました。かわいらしい、すてきな花嫁さんで、幸せ、一杯という感じが、あふれている彼女でした。新郎さんもラジコンが趣味の若者で、お似合いのカップル。自分の十五年前の姿を思い出し、自分達の新婚時代に、女房の父から、「お父さん」と呼ばれた時、自分と呼ばれた、気がしないで、他の人を呼んでいる気がした。

気楽な独身時代から、所帯を持つてはじめて、わかる事ばかりで、大変とまどった事を覚えています。子供が生まれて、夫婦として、又親としての実感がわいてくる。子供が一寸、親も親として一寸、子供が小学生になって、親も小学生、うちは中学生になったから、ちょうど父親も中学生で、ちょうどいいのかな。親と子が、勉強もしケンカもしながら、一緒に成長するのが良いのかも……

森 信之

行ナー の通一 君方コ トシ一



「女房と畳」

女房と畳は、新しい方が良いといわれるが、
とんでもない話であります。

私は結婚して十六年目になろうとしている
がなるほど畳は新しくても良いが女房は古い
方が良いのであります。私の性格とか考え方、
いびきのひどさ、食べ物の好みを、新しい女
房に理解してもらおうのにどれだけの年月を必
要とするか、まさしく気が遠くなります。

第一子供達への愛情の深さ等は、こちらら
尊敬しちゃう程であります。

しかし、段々木村家では最近何ともなく妻
が主導権をにぎりつつあり、この傾向はおそ
らくこのまま続くのではないかと思われま
す。口先では「男三人に女一人だから勝てないわ
」と云いながら、ふと気がついてみると結果妻
の言う通りでありますからして、まあ私とし
ては、「まあええがや」という心境になっ
てしまふのです。

十六年目の女房の古さ位になってきますと、
「最近の若い子はダメネ」という言葉が出て
きます。それでいて「私、若く見られたの」
と喜びます。こういうのを私は図々しいと思
うんですが……。

まあ私の女房は、ますます古くなりますが、
私への理解、子供達への理解もますます深
く
なると思っております……。

こういう風にはあんなまり文句を云わな
いだらうと思つたが、すぐばれるわな。

木村 英利

『フォーシーズン』

頭が悪い。

年とともにそう思う。

もう一度小学生に戻り、勉強をしたいな
と思う時がある。

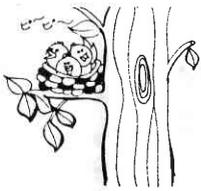
小学生が習う漢字すら、書けない、読めな
い、文章を書く時になれば、ぜんぜん文章に
ならない。こんなことが解からないかと、自
分身いやになってしまふ。英語・歴史・こ
とわざ、とにかくいろいろ勉強しなければ、
年をとる資格がないのではと思つている。

とにかく、今までの付けが回ってきている
事が書けない。

やはり頭が悪い。(ノイローゼではありま
せん)

今年で最後の二十代、頑張ってみます。

光田 昭男



暮しのエッセイ

「ゆるやとの幼き日々」

私の子供の頃の思い出を少し紹介します。

九州は長崎諫早、海と山に囲まれた小さな舎
田町。海の幸、山の幸と自給自足でのんび
りした舎田育ち。

今でも思い出に残っている潟滑りは、子供
時代の最高の遊びでした。この辺では考えら
れないほど、海の満ち引きが烈しい有明海は
辺り一面干潟、その上を手作りのそり板に、
右足の乗せ左足で干潟を蹴って進む。

最初はなかなか前に進まなく、慣れてしま
えばスピードも出て、おもしろい滑りです。
もともとは、このがた滑りは漁師が魚貝を取
る為の道具であり、今でも一部では、この方
法で取っているとか。

引き潮に置いてきぼりになった少しの水た
まりで、ハゼ、ウナギ、コチ、タコ等々、色々
な種類の魚を取ることが出来ます。

もう一つの干潟の主、ムツゴロウが干潟を
走り回っていますが、人影があるとすぐに穴
にもぐり、なかなか取る事は出来ません。

ムツゴロウを取るには、かけ針を使い遠く
からねらって、かけ針を飛ばし引っ掛ける方
法で取りますが、素人ではまず無理です。
ムツゴロウの蒲焼きは最高です。

もう一度あの頃に戻りたいですね。今の自
分の子供達にこんな思い出が、作れないのが
残念です。

横山 敏秋

「森松産業株に入社して」



高橋 一友

当社に入社しまして二ヶ月が過ぎました。入社した日が、十二月八日でこの日を知っていますか。一九四一年（昭和十六年）十二月八日、日本が米国（アメリカ）と日・米戦争の開始した日です。皆様が御存知だと思いますが、映画の「トラ・トラ・トラ」（真珠湾奇襲成功の暗号名）です。学生時代の時二回見に行きまして感動しました。

担当は、プレスの二号機です。最初は解りませんでした。徐々に先輩達に教えて頂きまして動かせるようになりました。覚えの悪い私にさぞ先輩達も苦労したと思います。非常に感謝しております。又当社の雰囲気といたしまして「明るい職場、働きやすい環境」が常時保っているのも良いことではないでしょうか。これからも維持しておくように心掛けます。

森松マン精神の森松マンは「今、ここ、私」を常に考える。良い言葉ですね。私にはいつも必要な言葉です。簡単なようでむづかしい、わからない時には考える。頭の回転の遅い私にはびったりでしょうね。未熟な私ですが、皆様の御指導により森松マンの一人として頑張りたいと思いますので宜しくお願いします。

私の雑学その一、「蜂蜜」

コーヒー、紅茶、ココアその他飲み物に皆様は「砂糖」を入れますが、自宅で飲む場合は、砂糖の代りに「蜂蜜」を入れます。これは学生時代にスーパーマーケットで、試食販売に来ていた栄養士さんが「蜂蜜」を使った料理をやっていた覚えがありました。何十種類もあり健康に良いと聞き使用しております。まだこれからも「蜂蜜」を勉強するつもりです。

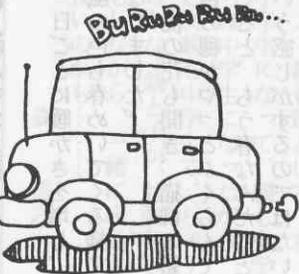


「モーリン」に入社して



鳥羽 幸治

い物だと思っていたのですが、いざもってみると、ぶ厚くて非常に重たいものだと思われました。まず自分に与えられた仕事は、原反出しや、デスクマットの出荷をする出庫係でした。倉庫の中を見た時に、原反のものがすごい種類の中で全部覚えられないかなと不安もちました。しかし、先輩たちと徐々にやってくうちにわかるとい言葉で安心しました。もう一つむずかしかったのが、リフトの、運転のしかたでした。パレットを持ち上げてただ別の場所に移すだけという見ていると、簡単にみえましたが、いざ自分が乗ってみると全然うまくできませんでした。今でもまだ、全然へたくそなのでもっと練習をさせてもらい早くうまく乗れるように努力したいと思えます。この森松は自宅からも近くにあり、通い易いので自分ではよかったです。前は車で一時間二十分もかかり通っていたのですが今は、三十分程で着きます。これからも、一日でも早く、会社に、仕事になれて、楽しく仕事が出来たらいいと思います。よろしくお願ひします。



自分がこの森松に入社して初めて思ったことは、原反の種類の数と重さでした。入社するまでは、ビニールなんて薄くて軽

今月の社内行事



三月十一日

慰安旅行(野沢)

十三日

午後十一時出発

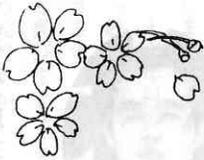
十七日

中堅幹部会議

午後七時より

二十一日

春分の日 休業



我家の事件簿

父の死に思う

私は一年の間に二人の父を亡くしました。まったく性格の違う父達は正反対の最後でした。人前で話をする事が嫌いで、商売をしていながら接客は全て母にまかせ、外へ出歩くこともせず黙々と仕事をしてきた実家の父は脳出血で倒れた時から意識は無く、ただ心臓が丈夫だったので呼吸機を付けて二日間植物人間で過ごしましたが、とてもあっけない最後でした。何もしてあげられませんでした。

反対にとっても社交的で、お酒にも強く、老人会の会長等もし、年に四、五回も旅行したり、色々なサークルで活躍していたこちらの舅は、膀胱癌で二年前に手術をして摘出したのですが、再発し苦しみぬいて亡くなりました。でも家族の私達は医者より宣告を受けていたので最後まで義父の望みを叶えてあげられるよう努力してきました。

実家の父が亡くなった時は、本人が苦しまずに行けた事が何よりも幸せな事なのだと、自分に納得させていたのですが、義父の亡くなった後、欲しがる物は何でも買ってきたいと言われれば何度も温泉へ連れて行ったりもしました。私としては充分尽して来たつもりです。ですから父にも色々やってあげたかったと思うのです。

本人達にとっては本当に幸せな死に方は、どちらなのでしょう。

伊藤 孝子

※クイズコーナー※

2月号クイズ答

a... | | => | | = 0

b... | | + | | = 22

c... | | X | | = 121

d... | | = 1

正解者多数につき抽選の結果

4名様に賞品をお送り致しました。

発送をもって発表に変えさせていただきます。

●編集後記

日ごとに暖かさを増し、風の色も春めいてくる様になりました。

桃の花も開き、猫柳の銀色の穂がやっつとふくらんでくると、もう春なんだなという感じがするのではないのでしょうか。

寒さには全く弱い私などは、ポカポカ日和が続く三月の声を聞いて生き返る思いです。

朝などはつい、寝坊をしてしまいがちですね。又、三月は卒業、進学シーズンでもあります。今月号にも紹介された様に、森松グループにも新しいメンバーが加わりました。森松グループの大きな力になってほしいと思います。

富田美千代

編集発行者
森松株式会社

発行責任者
橋本正子
昭和63年3月1日
第33号